

令和8年度
飼料作物奨励品種等特性表

栃木県

1 イタリアンライグラス

品 種 名	早 中 晩	奨励品種 採用年次	草型	1番草 草丈 (cm)	1番草 乾物収 量 (kg/10a)	2番草 乾物収量 (kg/10a)	耐倒 伏性	利用方法				特性及び栽培上の注意	適用地帯		
								青刈	サイ レー ジ	乾草	放牧		平坦 地帯	中間 地帯	高冷 地帯
タチマサリ	早	平14	直立	108	1,210	351	やや強	○	○	○	△	・初期生育が良好である。 ・2倍体品種。	◎	◎	○
タチユウカ	早	令5	直立	104	1,244	342	やや強	○	○	○	△	・初期生育が良好である。 ・収量が多い。 ・2倍体品種。	◎	◎	○
タチムシャ	中	令3	直立	118	1,283	256	やや強	○	○	○	△	・初期生育が良好である。 ・2倍体品種。	◎	◎	○
さつきばれEX	中	令3	直立	114	1,251	240	強	○	○	○	△	・初期生育が良好である。 ・耐倒伏性が強い。 ・2倍体品種。	◎	◎	○
ダイヤモンド ☆	晩	令8	直立	132	1,153	362	やや強	○	○	○	△	・初期生育が良好である。 ・収量が多い。 ・4倍体品種。	◎	◎	○
たちモン ☆	晩	令8	直立	139	1,120	394	やや強	○	○	○	△	・初期生育が良好である。 ・収量が多い。 ・4倍体品種。	◎	◎	○

注)(1)草丈、乾物収量は過去試験における平均値

(2)☆印は認定品種

2 ペレニアルライグラス

品 種 名	早中 晩	奨励品種 採用年次	利用1年目 年間乾物収量 (kg/10a)	利用1年目 1番草乾物収量 (kg/10a)	利用方法				特性及び栽培上の注意	適用地帯		
					青刈	サイ レー ジ	乾草	放牧		平坦 地帯	中間 地帯	高冷 地帯
夏ごしペレ	晩	令和4	1,204	474	△	△	△	◎	・放牧型。 ・越夏性に優れる。 ・適地 年平均気温9～12℃。	×	△	◎

注) 乾物収量は令和元～3年度における平均値

3 オーチャードグラス

品種名	早中晩	奨励品種採用年次	出穂期(月日)	草丈(cm)	耐倒伏性	利用方法				特性及び栽培上の注意	適用地帯		
						青刈	サイレーン	乾草	放牧		平坦地帯	中間地帯	高冷地帯
アキミドリⅡ	極早	平30	5.3	87	強	○	○	○	○	・放牧・採草兼用。 ・うどんこ病に対する抵抗性が強く、耐暑性に優れる。 ・早春の生育が旺盛であるため、放牧利用では早期に放牧を開始する。	◎	◎	○
ベンチマーク	早	平30	5.5	88	強	○	○	○	○	・放牧・採草兼用型。 ・草姿は直立型で、マメ科牧草との混播適性に優れる。 ・耐寒性及び耐雪性に優れる。	○	◎	○
ポトマック	早	昭47	5.5	84	強	○	○	○	○	・採草型。 ・草姿は直立型で多葉性であり、さび病に対する抵抗性が強い。 ・標高500m以下の平坦、夏枯れ地帯に適する。	○	◎	
まきばたろう	中	平30	5.10	78	強	○	○	○	○	・放牧・採草兼用。 ・草姿はやや直立型で収量性に優れる。 ・耐病性に特に優れ、永続性に優れる。	○	○	○
きよは	中	令8	5.9	89	強	○	○	○	○	・放牧・採草兼用。 ・草姿は直立型で早春、晩秋の成長性が良好であり、収量性に優れる。 ・再生力及び高温耐性共に優れる。	○	○	○

4 ソルガム

品種名	早中晩	奨励品種採用年次	出穂期(月日)	稈長(cm)	耐倒伏性	利用方法				特性及び栽培上の注意	適用地帯		
						青刈	サイレーン	乾草	放牧		平坦地帯	中間地帯	高冷地帯
KCS105 (スーパーシュガーソルゴー)	晩	平4	8.22	294	中	○	◎			・稈長は2.5~3.0m。 ・可溶性炭水化物含有量が高いため良質サイレーンを調整しやすく、家畜の嗜好性が良い。 ・収量性は中程度である。	◎	◎	
FS902 (ビッグシュガーソルゴー)	極晩	平4	8.3	368	強	○	○			・極長稈。 ・繊維質であるためサイレーン品質や家畜の嗜好性はやや劣る。 ・高収量が得られる。	◎	◎	

5 トウモロコシ

品種名	早 中 晩	奨励品種 採用年次	相対 熟度 (RM)	稈長 (cm)	乾物収量 (kg/10a)	雌穂割合 (%)	耐倒 伏性	特性及び栽培上の注意	栽 植 密 度 (10a当たり)	適用地帯		
										平坦 地帯	中間 地帯	高冷 地帯
34N84 (ハイオニア108日)	極早	平18	108	248	1,559	61	強	・初期生育が良好で、倒伏に強い。 ・収量が多く、特に茎葉乾物収量が多い。	6,800～7,200本	◎	◎	◎
KD641 (コールドデントKD641)	早	平31	114	305	1,813	56	強	・茎葉部の収量が多い。 ・倒伏に強い。	6,000～6,500本	◎	◎	○
TX1334 (ロイヤルデントTX1334)	早	令5	115	304	1,925	52	強	・茎葉及び雌穂の収量が多い。 ・倒伏、折損に強い。	6,500～7,500本	◎	◎	○
P1341 (ハイオニア115日)	早	令7	115	322	1,932	49	強	・茎葉及び雌穂の収量が多い。 ・倒伏、折損に強い。	6,800～7,200本	◎	◎	○
KD671 (コールドデントKD671)	早	平27	117	315	1,750	50	強	・初期生育が良好で、倒伏に強い。 ・雌穂が大きいが、茎葉部も収量が多い。	6,000～6,500本	◎	◎	○
9F016(ZX4182) (Z-Corn118)	早	平28	118	310	1,705	50	強	・茎葉収量が多い。 ・耐倒伏性に優れる。	6,800～7,200本	◎	◎	○
P2088 (ハイオニア118日)	早	平31	118	319	1,849	53	強	・雌穂が大きく、収量が多い。 ・倒伏に強い。	6,800～7,200本	◎	◎	○
P2105 (ハイオニア123日)	中	平31	123	304	1,926	60	強	・茎葉及び雌穂の収量が多い。 ・倒伏に強い。	6,800～7,200本	◎	◎	○
KD731 (コールドデントKD731)	中	平24	123	301	1,961	50	強	・太茎で倒伏に強い。 ・茎葉部の収量が多い。	6,000～6,500本	◎	◎	○
P2307 (ハイオニア125日)	中晩	平27	125	324	2,028	51	強	・茎葉収量が多い。 ・除草剤のニコスルフロンで薬害を生じるため留意すること。	5,800～6,200本	◎	◎	△
SH4812 (スノーデントSH4812)	中晩	平31	125	330	1,950	50	強	・雌穂が大きく、収量が多い。 ・黒穂病の多発ほ場では発生に留意すること。	6,000～6,500本	◎	◎	△

注) (1) 利用形式は、すべてサイレージとする。

(2) 奨励品種の値は畜産酪農研究センターで調査した平成28～30年度の平均値。

TX1334は令和3～5年度の平均値、34N84は令和2～4年度の平均値、P1341は令和4～6年度の平均値
(栽植密度6,667本/10a)。

6 エンバク

品種名	早中晩	奨励品種採用年次	出穂期(月日)	草丈(cm)	耐倒伏性	利用方法				特性及び栽培上の注意	適用地帯		
						青刈	サイレージ	乾草	放牧		平坦地帯	中間地帯	高冷地帯
K78R7 (アーリーキング)	極早	平29	10月上旬 ～下旬	113	強	○	◎			・晩夏播き、年内刈り用。 ・乾物収量が多く、耐倒伏性に優れる。 ・出穂期以降の水分低下が速いため、ロール調製がしやすい。	◎	◎	

注) 草丈は平成26～28年度における平均値

7 ライムギ

品種名	早中晩	奨励品種採用年次	出穂期(月日)	草丈(cm)	耐倒伏性	利用方法				特性及び栽培上の注意	適用地帯		
						青刈	サイレージ	乾草	放牧		平坦地帯	中間地帯	高冷地帯
キングライムギ	早	昭60	—	138	弱	○	○		△	・分けつはやや少なく、草丈が高い。 ・春の生育が極めて早い。 ・収穫時期は出穂期までとする。	○	◎	◎
春一番	早	昭60	—	134	中	○	○			・草丈が高く、耐倒伏性に優れる。 ・茎の太さは中程度で、茎部割合が大きい。 ・早春の生育に優れ、短期多収の品種である。 ・耐寒性大で、雪腐病に強い。	○	◎	◎

8 アカクローバー

品種名	早中晩	奨励品種採用年次	出穂期(月日)	草丈(cm)	耐倒伏性	利用方法				特性及び栽培上の注意	適用地帯		
						青刈	サイレージ	乾草	放牧		平坦地帯	中間地帯	高冷地帯
ケンランド	早	昭47	5.17	75	強	○	○		△	・冬枯れのない地域で多収を示す。 ・南炭そ病に対する抵抗性は強いが、茎割病の多発する寒冷地には適さない。	○	◎	○

9 シロクローバー

品種名	早中晩	奨励品種採用年次	出穂期(月日)	草丈(cm)	耐倒伏性	利用方法				特性及び栽培上の注意	適用地帯		
						青刈	サイレージ	乾草	放牧		平坦地帯	中間地帯	高冷地帯
フィア	中	昭47	—	—	—				◎	・放牧型。 ・コモン型として葉はやや大きい葉の密度が高く、再生力旺盛で収量が多い。 ・温暖、湿りのある肥沃地で持続性が高く、土壌への窒素供給力も優れている。		○	◎
カルフォルニアラジノ	晩	昭47	—	37	強	◎	△		△	・採草・放牧兼用。 ・収量はやや低いが、暖地では夏期の収量低下が少なく、収量の季節分布がよい。 ・ラジノクローバー単一化の傾向があるため、適正な刈取回数と施肥管理が必要。	○	◎	○

10 WCS用稲・飼料用米

品種名	早中晩	奨励品種採用年次	稈長 (cm)	地上部 風乾物 全重 (kg/10a)	精玄 米重 (kg/10a)	耐倒 伏性	耐病性		耐冷 性	脱粒 性	穂発 芽性	特性及び栽培上の注意	適用地帯			利用適性	
							いもち 病	縞葉枯 病					県南	県央	県北	稲WCS	飼料用米
夢あおば	早	平28	87 (95)	1,980 (1,932)	710 (750)	強	不明	抵抗性	やや弱	難	中	<ul style="list-style-type: none"> ・子実と茎葉の両方が多収。 ・極端な多肥栽培では、倒伏する可能性があるため留意する。 ・縞葉枯病に抵抗性がある。 ・穂発芽が懸念されるため、刈遅れに注意する。 	◎	◎	◎	◎	◎
つきはやか	早	令3	105 (112)	2,103 (1,973)	304 (367)	強	不明	抵抗性	強	難	—	<ul style="list-style-type: none"> ・消化されやすい茎葉の収量が高く、穂長は極短で籾の割合が低い。 ・長稈だが耐倒伏性に優れ、縞葉枯病に抵抗性がある。 ・サイレージ発酵に必要な糖含量が多いため、稲WCSに適する。 ・早植えかつ多肥条件で栽培し、収穫は出穂後30～40日に行う。 ・晩植の際はいもち病対策を徹底する。 	◎	◎	◎	◎	×
月の光 *	早	令6	86	1,870	627	強	強	抵抗性	不明	難	やや難	<ul style="list-style-type: none"> ・穂数が少ないので多肥条件とし、栽植密度を増やし、かき取り量は少なくし、一株植え付け本数が多くなるように留意する。 ・耐倒伏性は強であるが、倒伏する場合は株元から挫折倒伏になりやすい。極端な多肥栽培は避ける。 	◎	◎	◎	×	◎
つきあやか	中	令3	110 (117)	2,131 (2,071)	150 (81)	強	不明	抵抗性	やや強	難	—	<ul style="list-style-type: none"> ・消化されやすい茎葉の収量が高く、穂長は極短で籾の割合が低い。 ・長稈だが耐倒伏性に優れ、縞葉枯病に抵抗性がある。 ・サイレージ発酵に必要な糖含量が多いため、稲WCSに適する。 ・早植えかつ多肥条件で栽培し、収穫は出穂後30～40日に行う。 ・晩植の際はいもち病対策を徹底する。 	◎	◎	◎	◎	×
クサホナミ *	晩	平22	100 (106)	2,234 (2,166)	877 (806)	強	不明	抵抗性	—	難	やや易	<ul style="list-style-type: none"> ・無毛でやや長稈、子実と茎葉の両方が多収。 ・縞葉枯病抵抗性の程度は高くないため、麦後や多発地帯では注意する。 ・晩生のため、県北地帯では稲WCSとして使用する。 ・黄熟期を過ぎると耐倒伏性が低下するので、刈り遅れに注意する。 	◎	◎	○	◎	○
つきすずか	極晩	平30	134 (122)	2,966 (2,824)	9 (61)	強	不明	抵抗性	弱	難	—	<ul style="list-style-type: none"> ・茎葉多収で子実が極めて少なく、収量が多い。 ・長稈だが耐倒伏性に優れ、縞葉枯病に抵抗性がある。 ・サイレージ発酵に必要な糖含量が多いため、稲WCSに適する。 ・収量確保には、早植えかつ多肥条件が有効である。 	◎	◎	◎	◎	×

注) (1) ☆印は認定品種

(2) 基肥窒素量 12kg/10a 月の光のみ 基肥窒素量 6kg/10a 追肥窒素量 2kg/10a

(3) 数値は、農業試験場で調査した平成27～令和元年度の平均値(5月移植、栽植密度22.2株/m²)。

つきはやかは平成29～30年度と令和2年度の平均値、つきあやは平成29～令和元年度の平均値、つきすずかは平成27～29年度の平均値。

月の光は令和5年度の値

()内の数値は、6月移植のデータ。

(4) 栽植密度 22.2株/m²